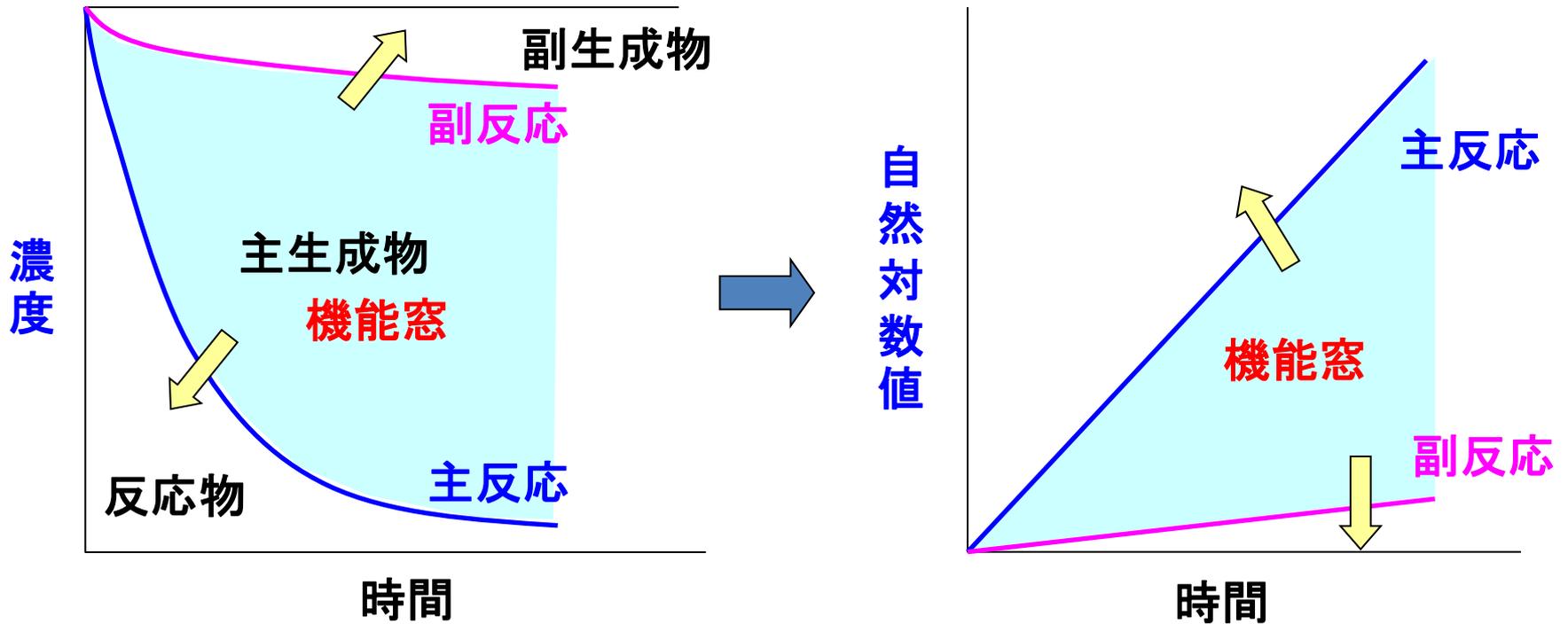


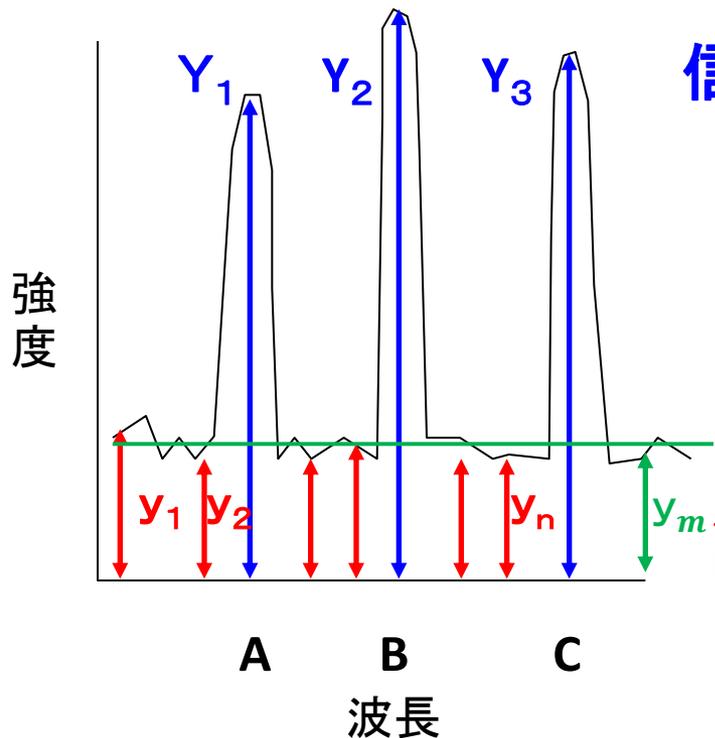
動的機能窓法



- ・求める機能を主反応に品質不良を副反応に適用
- ・主反応はできるだけ大きく、副反応はできるだけ小さく
- ・機能窓ができるだけ広くなるようにする

機能窓

SN比(η)には加法性があります



信号

$$\eta_1 = 10 \log$$

$$\eta_2 = 10 \log$$

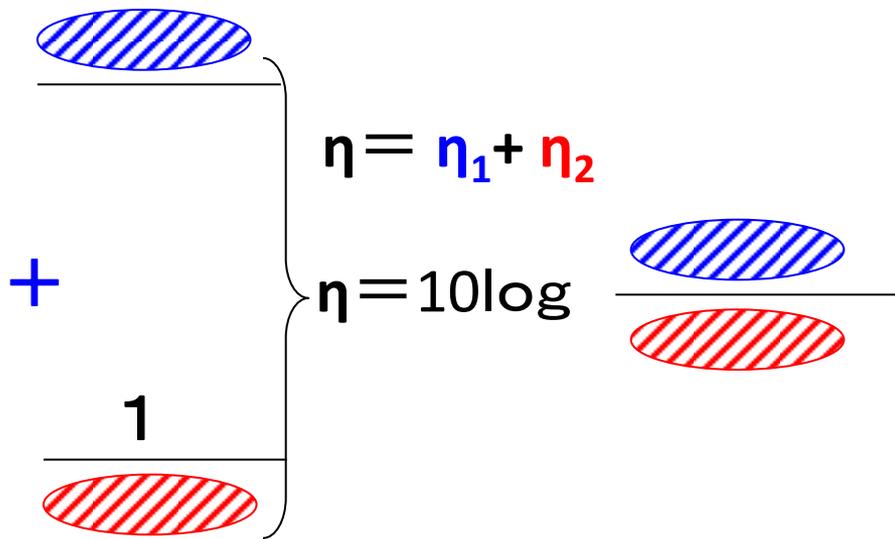
ノイズ

$$y_m = \frac{y_1 + y_2 + \dots + y_n}{n}$$

$$S_T = Y_1^2 + Y_2^2 + \dots + Y_n^2$$

$$S_m = (Y_1 - y_m)^2 + (Y_2 - y_m)^2 \dots (Y_n - y_m)^2$$

$$\eta_1 = 10 \log \frac{1}{nr} (S_m - V_e) / V_e$$



望小特性: できるだけ小さくしたい

$$S_T = y_1^2 + y_2^2 + \dots + y_n^2$$

$$V_T = \frac{S_T}{n} \quad \eta_2 = 10 \log \frac{1}{V_T}$$